

10/2(土) まいど! 倫理号です。気持ちの良い朝です。
今回の倫理の教えは平素からの気づきが大切だと。さし
実行する事が大事
幸也 平心 一鳥

2021. 10. 2~10. 8

今週の

倫理

10月のテーマ | 決断をする

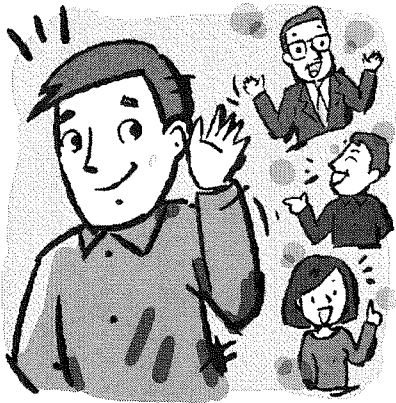
1249号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

右にするか、左にするか。決断をくだしたあとの自分のとるべき責任をまずはつきりさせると、逆にその決断が容易にくだせるものである。責任をどうとるのか。あやまる。弁償をする。任をしりぞく。自分の一切を投げうって処置をまかせる。そのほか責任のとりかたはいろいろあるであろう。こうしたとき、自分の小さな利益に執着せず、赤はだかになってもよいと覚悟すると、右か左かの方向を容易に決断することができる。こうした意味でも自分自身だけの欲望にとらわれていると、決断はしにくいものである。思いきって、すべてを捨てることに、おのずから方向はひらけてくる。

さてまた、当然のことながら、いろいろな情報（資料）がないと、決断をくだしにくいことがある。何の情報もなければ、きめようがない。どうしたら情報が得られるのか。平素から情報をあなどり、そまつにしている、いざというとき、なかなか正確な情報が得られない。

情報といっても、けっきよくは人によつて得られるのである。だから人のいうことを平素からそまつにせず聞いておくことがたいせつだ。不快なニュース、いやな知らせなども、耳をふさがず、よく聞いておく。もし情報をたいせつにする平素の実行が



平素から情報を大切に

丸山竹秋

できていなかったと気づいたときは、率直にこれを認め、まごころから反省する。そうしてすぐに誠意をもって情報を集めようとする。そしてあわてず、さわがず、まごころを集中する。そうすると、そのまごころに応ずるだけの情報はかならず集まってくる。

平素の心がけについてさらにいえば、「適切に気がつく」ということがたいせつだ。ところで、平素から気がついたことをすぐ行なっていないと、いざというときも行なえない。今日はこれをやったらよいとせっかくなきながら「まあ、明日にしよう」と延ばす暮らしを続けていると、いざというとき、適切な措置が頭に浮かんでこない。かんじんのとき、さっぱり気がつかないのである。小さなことでも実行に心がけていないと、大事なことの実行はなおさ
らできないのだ。

いざいざにしても決断にあたっては事ながらむずかしければむずかしいほど、それにまごころを集中させる。逃げてはいけない。酒や遊びに逃避しては、ほんとうの決断は得られない。それらは逃避するためのものではなくて、決断に対する誠意を集中させるための準備のようなものである。

真剣に取り組み。さんさんたる太陽の恵み！ 信ずべき人の言！ 立派な書物！ いずれに取り組み、頭を下げてでも叡智は与えられよう。ほんとうに真剣に教えを乞えばヒントはかならずあたえられるのである。

『つねに活路あり』より